

令和6年度愛知県献血推進協議会議事録

(1) 日時・場所

令和7年2月7日(金) 午後2時から午後3時30分まで
愛知県庁本庁舎6階 正庁

(2) 出席委員(17名)(順不同、敬称略) (注)◎:議長(会長)

佐野 彰、倉元 須麻子、久永 記央、永尾 孝広、北川 美香、
小澤 有加、中角 竜二、木下 朝博、牧野 拓哉、田那村 収、
松本 まもる、大橋 洋一郎、村松 智恵子、阿部田 洋、竹内 清美、
◎長谷川 勢子

(3) 代理出席者(5名)(順不同、敬称略) (注)カッコ内は委員氏名

平出 孝枝(伊藤 和子)、宇野 雄祐(錦見 尚道)、
川出 潤一郎(子安 春樹)、石川 淳二(青山 泰司)、
今井 勇治(栗木 雅洋)

(4) 欠席委員(5名)(順不同、敬称略)

浅井 信晴、安達 一樹、本多 恭子、松下 正、撫井 賀代、川口 佐織

○ 開会

医薬安全課・稲熊担当課長

「令和6年度愛知県献血推進協議会」を始めさせていただきます。

それでは、開催にあたりまして、愛知県保健医療局 長谷川局長から御挨拶申し上げます。

1 挨拶

愛知県保健医療局・長谷川局長

本日はお忙しい中、またお寒い中、「令和6年度愛知県献血推進協議会」に御出席頂き、ありがとうございます。

本日の協議会は、愛知県における献血の普及啓発、そして、血液を安定的に確保・供給するための体制づくりについて協議するために毎年開催しているものです。

日頃から皆様方におかれましては、献血推進に対しまして格別なる御尽力・御協力を頂き御礼申し上げます。

さて、本県における献血の状況でございますが、昨年12月末時点の献血者数は21万8千人を超え、今年度の献血目標を達成できる見込みとなっております。この場をお借りして、皆様の御尽力、御協力に感謝申し上げます。

しかしながら、少子高齢化の影響により、献血が可能な16歳から69歳までの人口は減少しております。加えて、若年層の献血率は低く、今後も血液事業を安定的に継続するためには、広く県民に献血についての理解を深めて頂く必要があります。

そこで本県では、献血を推進するために、現在、「はたちの献血キャンペーン」や「卒業献血キャンペーン」など、若年層に向けて啓発活動を実施しているところです。

引き続き、県民の献血への理解が深まるよう、取り組んでまいりますので、皆様には御協力をお願いいたします。

最後に、本日の議題は「愛知県献血推進計画」について、今年度の進捗状況と令和7年度の計画案の2つです。委員の皆様からの積極的な御意見を期待して、私からの挨拶とさせていただきます。

資料確認・議長選出

医薬安全課・稲熊担当課長

本日の会議は、「愛知県献血推進協議会設置要綱」の第6第2項により、原則公開です。また、要綱第9により本日の会議録は、後日、御出席の委員の皆様へ御確認頂いた後、当課のホームページで公開します。

続きまして、本日御出席の委員及び代理者の方々を御紹介させて頂くところですが、時間の都合もありますので、お手元にお配りしております配席図をもちまして紹介に代えさせていただきます。

ここでお手元の資料の確認をお願いします。

(資料の確認)

もし足りないようでしたらお知らせくださいますようお願いいたします。

はじめに、会長の選出をお願いします。会長は「愛知県献血推進協議会設置要綱」第5の規定により「委員の中から互選により選出する」としてとされております。事務局としましては、特に異議がなければ、愛知県保健医療局の長谷川委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(一同異議なし)

それでは、長谷川委員に会長をお願いします。

議事に移らせて頂きます。なお、要綱第5の2の規定により、「会長は会務を総理し、会議の議長となる」こととされておりますので、長谷川会長には議長をお願いします。

それでは、議長席をお願いします。

2 議題

議長・長谷川会長

それでは、早速議事に入りたいと思います。皆様には円滑な議事進行に御協力をお願いします。

本日の「議題」は2つです。御意見等につきましては、すべての議題が終わった後で、一括してお伺いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

始めに、議題（1）の「令和6年度愛知県献血推進計画の進捗状況」について、事務局から説明してください。

（1）令和6年度愛知県献血推進計画の進捗状況について

医薬安全課・杉浦主査

医薬安全課の杉浦でございます。令和6年度愛知県献血推進計画の進捗状況について、説明いたします。

お手元の冊子「愛知県献血推進協議会 資料」の1ページを御覧ください。

はじめに、今年度の愛知県献血推進計画を掲載しております。本計画に基づき、2ページにあります種類別目標数を確保するため献血推進活動に取り組んでおります。

次に8ページを御覧ください。愛知県における年度別献血目標及び達成状況について、御報告します。表の下段、令和6年度の献血者数の欄を御覧ください。

令和6年度の目標達成状況ですが、目標の286,730人に対しまして、218,661人であり、12月末時点での達成率は76.3%となっております。また、市町村別の実績については、9ページ、10ページを御覧ください。

次に、資料の11ページを御覧ください。11ページ以降の数値につきましては、年度ではなく、1月から12月までの年計となっております。

ページ上段を御覧ください。愛知県における令和6年の献血者数は292,367人で、前年より3,775人減少しております。

ページ下段の全国の令和6年の献血者数は、速報値では5,013,064人となっており、9,341人増加しております。なお、未集計部分は空欄とさせて頂いております。

資料の13ページを御覧ください。年齢別の献血者数の推移です。

ページ上段が愛知県の状況、ページ下段が全国の状況で、年齢別構成比のグラフを見て頂きますと、双方におきまして、献血者数は50歳代が最も多くなっております。

愛知県では、40歳代及び50歳代で全体の約53%を占める一方で、10歳代から30歳代が占める割合が33.6%となっており、引き続き、若年層の献血者の確保が課題となっています。

次に14ページ、15ページを御参照ください。平成17年から令和6年までの愛知県と全国の年代別献血状況をお示ししました。これによりますと、本県の人口100人当たりの献血者数を示す献血率において、10代に関しましては、減少傾向にありましたが、平成29年から増加に転じました。しかし、令和2年、3年は新型コロナウイルス感染症の影響により、平成29年程度の割合となっています。そして令和6年は平成30年に近い水準に戻っております。

次に、20ページの上段を御覧ください。高校生の献血者数は令和元年度から令和3年度にかけて、全国、愛知県ともに減少しています。これは、新型コロナウイルス感染症の影響により、献血を行う機会が減少してしまったことが考えられます。愛知県では令和4年度に増加したものの、令和5年度は254人減少しています。また、全国でも引き続き減少しています。

次に資料の21ページを御覧ください。ページ中段の移動採血における献血状況ですが、職域における献血者数が全体の5割を占めております。また、ページ下段の職業別の状況を見ましても、会社員が6割以上を占めており、企業、事業所の方に多大な御協力を頂いております。また、昨年と比較して、学域の配車数が増え、高校生の献血者数が増加しております。

資料の23ページを御覧ください。愛知県における血液製剤の供給状況の推移を示しております。令和6年は実本数で、愛知県内の医療機関に成分製剤を268,104本供給しております。前年と比較して増加しておりますが、医療機関からの供給要請に対して、滞りなく供給ができております。

資料の24ページを御覧ください。その他として、献血者の状況をまとめております。（1）の回数別実献血者数ですが、依然として、1回だけの献血者が約6割を占めております。この方々をいかにしてもう1回献血会場へ足を運んで頂くかが課題となっております。

このほか、25ページから令和6年の市町村別献血実績について掲載しておりますので、後ほど御覧ください。

それでは、令和6年度の進捗状況の説明に戻ります。献血目標量を確保するために実施した措置について御報告します。資料の29ページの令和6年度血液事業概要を御覧ください。

まず、（1）の若年層に対する啓発資材の配布についてですが、リーフレット「はじめての献血」を作成し、高校1年生及び新20歳を対象に配布いたしました。愛知県血液センターと協働し、7月から「10代夏の献血キャンペーン」として、県内の高校2年生、3年生にリーフレットを配布したほか、12月から「卒業献血キャンペーン」

として、県内の高校3年生にリーフレットを配布しました。他に、(2)「はたちの献血」キャンペーンや(3)夏休み親子血液教室を実施いたしました。

次に(4)「複数回献血キャンペーン」の実施では、年2回以上の400mL献血を推進するため、昨年7月から本年3月にかけて「400mL複数回献血キャンペーン」を行っております。キャンペーンを周知するためのポスターを作成し、市町村や県内の施設などに配布し周知しました。また複数回の400mL献血に協力して頂いた方には、記念品を配布しております。

次に30ページを御覧ください。(5)「愛の血液助け合い運動」についてです。毎年7月の1ヶ月間、全国一斉に展開されています。本県でも、市町村における広報誌掲載、献血推進キャラクター「けんけつちゃん」を活用したウェットティッシュの配布等を県内各地において行いました。また、(6)の愛知県献血運動推進大会を7月29日に開催し、長年献血に御協力頂きました個人及び団体に大臣表彰、知事感謝状等の贈呈及び講師をお招きし、講演会を行いました。

次に、31ページを御覧ください。献血推進組織等の育成として、(8)のとおり献血推進リーダーへの講演会を開催しました。また、名古屋市や中核市を交えて、(9)の血液事業担当者会議を開催しました。

最後に、32ページを御覧ください。(12)の「広報関係事業結果」につきまして、表にありますようにテレビ、ラジオ、新聞等できるだけ多くの媒体を活用いたしまして、献血について広報活動を行いました。また、今年度からSNSでの啓発活動に取り組み、「愛の血液助け合い運動」や「官庁街献血」等での発信を実施いたしました。

今年度の愛知県献血推進計画の進捗状況については以上です。

愛知県赤十字血液センター・中津留事業推進一部長

愛知県赤十字血液センター事業推進一部長の中津留でございます。

平素より血液事業におきましては、多大なる御理解、御協力を賜りまして誠にありがとうございます。この場をお借りして感謝申し上げます。

ただ今、杉浦主査から御説明がございましたが、実際に血液事業を行う立場として私からも少し説明をさせていただきます。

資料8ページの年度別献血目標及び達成状況ですが、供給計画及び国から示された原料血漿確保量に基づき必要量を算定し、過不足のない採血を行っております。令和6年度におきましても、12月までの献血者数の実績で達成率76.3%、年度での達成率も101.1%と見込んでおり、必要量を確保できております。

資料11ページを御覧ください。令和6年の献血者数は、先ほども報告がありましたとおり292,367人、昨年が296,142人でしたので、昨年からの減少数としては3,775人、1.3%減少しております。

一方、供給数でございますが、23ページを御覧頂きますと、製剤ごとには差があるものの、令和6年の供給数は268,104本、昨年が265,700本でしたので、昨年からの増加数としては2,404本、対前年100.9%となります。

医療機関の需要に対し安定的に供給するために、献血ルームにおいて需要に応じた献血種別をすすめたこと、また、成分献血におきましては、献血者ひとり一人の体重に応じた最大採取量まで採血を増量するなど、少ない献血者数であっても効率的な採血を行うことにより必要な血液量を確保し、本年度も各医療機関の需要に対して安定的に供給できていると考えております。

続きまして、資料のページが少々戻りますが13ページを御覧ください。10代の献血者数については、13,169人でしたので、昨年から614人増加しております。資料21ページを御覧ください。高校生も6,062人で昨年から601人増加しております。

10代の献血者数増加につきましては高等学校への移動採血車の配車数増加が影響しております。令和5年はコロナ禍の影響を受けた職域献血が回復傾向にあり、学域より採血効率の高い職域への配車を優先しておりましたが、令和6年は将来の献血協力基盤となる若年層献血者を確保するため、学域献血を推進したことが、10代20代の献血者が前年より増加した一因と考えております。また、献血セミナーやキャンペーン等の実施を通じて、9か所ある献血ルームでの献血協力へ10代20代を誘導する施策を学域献血と並行して実施したことも、10代20代献血者の増加に寄与していると考えています。

高校生の献血者数の増加につきましては、高等学校での献血状況が令和5年は12校607人であったのに対して、令和6年は15校1,238人で631人増加しました。

献血可能年齢に達した早い時期、則ち16、17歳での献血体験がその後の献血への動機付けに有効であると考えておりますので、高校献血及び献血と併せた事前セミナー等を推進し、少しでも多くの方に献血に触れる機会を提供したいと考えております。大学生につきましては、学生献血連盟を中心に献血の推進にも携わって頂いておりサマー献血キャンペーンやクリスマス献血キャンペーン等では、同世代に向けた発信力の強さを遺憾なく発揮頂いています。

また当血液センターでは、高校・大学・専門学校の生徒を対象に、今年度12月末までに41回のセミナーを開催し、2,482名の学生に参加頂きました。他にも中学校・高校の職場体験を積極的に受け入れ、輸血用血液の検査・製剤、供給部署の見学や、献血の呼びかけといった業務体験をして頂くとともに、高校生については献血にも御協力頂いております。

また並行して、将来の輸血医療を支える世代となる小学生、幼少期の方々への献血啓発にも力を入れており、ショッピングモールにおけるイベントや歩行者天国等において、献血運搬車両やパネル展示、献血クイズ等を実施し、献血を身近な存在と認知し、知って頂く機会の増加に取り組みました。

将来の献血を支える献血対象年齢未満の児童と保護者に対して 献血を知ってもらうための疑似体験イベント「キッズけんけつ」の開催やラーケーションの受入は、令和6年の新たな取り組みでございました。

また、献血Web会員サービス「ラブラッド」につきましては、現在、265,096名の会員の登録を頂いているところであり、本機能を活用したメールによる会員への献血の協力依頼も行っております。

年間複数回にわたり献血の協力を得ることによって血液を安定的かつ効率的に確保するだけでなく、アプリからの献血予約や事前Web問診回答、検査サービスの閲覧などの献血者の利便性の向上に寄与するラブラッド会員への登録についても引き続き促進してまいります。

説明は、以上でございます。

（２）令和７年度愛知県献血推進計画（案）について

議長・長谷川会長

ありがとうございました。

次に議題（２）の「令和７年度愛知県献血推進計画（案）」について、事務局から説明してください。

医薬安全課・杉浦主査

令和７年度愛知県献血推進計画（案）について、説明させていただきます。

「愛知県献血推進計画」については、「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」第10条第４項の規定により、国の基本方針と国の献血推進計画に基づき、毎年度、翌年度の都道府県献血推進計画を定めることとなっております。

国の献血推進計画については、例年３月頃に告示されるため、現時点では案が示されているのみですが、それを参考に今回、県の計画（案）を作成しました。

本日、委員の皆様からの御意見を踏まえて、事務局が告示された国の計画を確認後、「令和７年度愛知県献血推進計画」を決定する予定としております。

はじめに、国の献血推進計画（案）について、資料の33ページを御覧ください。

「今年度からの主な変更点」については、献血者の利便性を向上させる取組がライフスタイルの多様化に対応するための取組であることが明記されております。

次に、34ページを御覧ください。令和７年度愛知県献血推進計画（案）について説明させていただきます。なお、下線部分は今年度の計画との変更点となり、主に献血目標と語句の修正を行っております。

第１では献血の推進に関する「基本的な考え方」を、第２では献血受入計画に関わる県、市町村、血液センターなどの「関係者の役割」について記載しておりますが、年度の修正以外は、今年度と変更はありません。

次に、第3では「献血目標量の設定」についての記載です。35ページの表「種類別目標数」のとおり、設定しております。

献血目標者数は、全血献血において、200mLが5,063人、400mLが180,685人、成分献血において、血漿成分が72,334人、血小板成分が32,579人、以上、合計290,661人の献血者の確保を目標とします。

この目標値は、今年度と比較して3,931人の増となっております。

また、令和7年度の愛知県における献血目標量は、合計1,053,893単位で、今年度と比較して773単位の増となっております。

なお、この表でお示ししています献血目標は、令和7年度に必要となる血液の需要見込み、愛知県内での過去の輸血用血液の供給実績と、国が算出した令和7年度の原料血漿の確保目標量、さらに、血液製剤の期限切れや検査不合格等も考慮した上での数量となっております。

次に、資料の39、40ページを御覧ください。令和7年度の市町村別の献血目標を示してあります。

各市町村の200mL献血と400mL献血の目標は、一番右端の列にある各市町村別の過去3年間の移動採血車の配車実績から算出しております。

また、血漿や血小板の成分献血の目標については、血液センター及び献血ルームで採血しますので、40ページの表の一番下、固定施設に計上しております。

市町村におかれましては、先ほどの34ページの「第2 関係者の役割」の2にありますように、引き続き「血液センターの献血受入計画の実施を確保するため、献血会場の確保等の協力」をお願いします。

それでは、資料35ページの中段を御覧ください。第4の「献血目標量を確保するために必要な措置」には、献血を推進するための取組みについて記載しております。

1は、献血に関する普及啓発及び広報活動の実施です。

(1)「若年層、幼少期への普及啓発」のア、高校生、大学生等の献血可能な若い世代を対象としたリーフレット等を作成し、配布します。また、小学生の親子を対象とした親子血液教室を開催し、親子が献血に触れ合う機会を設けます。続いて、ウ、SNSを含むインターネット等を主体とした情報発信や、報道機関等の協力を得て、実効性のある効果的な広報活動を展開します。

続いて36ページの、カ、血液センターが実施する「献血セミナー」等での体験学習の機会を学校等において積極的に活用してもらえるよう情報提供します。

次に(3)の「複数回献血の推進」については、若年層を含む幅広い層に拡大するよう、血液センターと協力し、キャンペーンを実施します。

次に(4)の「献血推進キャンペーン等の実施」では、7月の「愛の血液助け合い運動」、そして現在実施しておりますが、1月から2月までの「はたちの献血キャンペーン」を令和7年度も実施します。

続きまして、2の献血運動推進大会の開催につきましては、今年度と同様、7月に愛知県の献血運動推進大会を開催し、知事感謝状を贈呈したいと考えております。

続きまして、資料の37ページを御覧ください。第5「献血の推進に際し、特に配慮すべき事項」については、国の計画案に基づき、ライフスタイルの多様化に対応するための取組の文言を追記しています。

そして第6「その他献血の推進に関する重要事項等」については、今年度と変更はありません。

なお、参考資料の18ページから「新旧対照表」をつけておりますので、参考にしてください。

また、資料の41ページには血液事業（案）の概要を、42ページから43ページには令和7年度献血推進のための具体的方策（案）をお示ししています。令和7年度も今年度と同様に、各種事業を展開して参りたいと考えております。

愛知県赤十字血液センター・中津留事業推進一部長

愛知県赤十字血液センター事業推進一部長の中津留でございます。

ただ今、杉浦主査から御説明がございましたが、令和7年度計画の目標数等の変化につきまして、私から補足説明をさせていただきます。

資料35ページを御覧ください。令和7年度の献血目標人数は、全体で290,661人でございます。前年度が286,730人でしたので、前年度からは3,931人増加しております。採血区分別では成分献血が477人減少しましたが、全血献血は4,408人増加しております。

献血目標は、令和7年度に必要となる血液の需要見込み、愛知県内での過去の輸血用血液の供給実績、原料血漿の確保目標量、血液製剤の期限切れや検査不合格率等を考慮した数量となっており、今回の増加理由としましては、全血献血から製造される赤血球製剤の需要は微増、成分献血から製造される血漿製剤・血小板製剤の需要は微減と見込んだことによるものです。

なお、原料血漿の確保につきましては、平成15年度以降は毎年度の需給計画を定め、血漿分画製剤の安定供給の確保が図られているところです。

令和6年度におきましては、血液製剤の製造販売業者等の供給見込及び原料血漿並びに製剤の在庫見込のほか、貯留在庫を勘案し、配分量120万Lに対し、原料血漿確保目標量は123万Lでありました。

令和7年度においては、国内献血由来製剤の最近の需要の動向及び血液製剤の製造販売業者等が保有する原料血漿並びに製剤の在庫の状況のほか、貯留在庫の状況を踏まえ、安定供給に必要な原料血漿を確保する観点から、配分量120万Lに対し、確保目標量が120万Lとされ、令和6年度から3万Lの減少となりました。

こうした全国的な原料血漿の確保目標量の減少により、成分献血については目標人数を減らすことになり愛知県の成分献血につきましては、令和6年の105,390人から477人減少の104,913人を予定しております。

目標人数の増加の理由については、以上となります。来年度につきましても引き続き採血基準の範囲内で献血者の体重に応じた血漿量を採血するとともに、輸血用血液製剤の製造工程においても効率的な手法により、原料血漿の確保に引き続き努めてまいります。

また、本年の事業概要でもお話しましたが、Web会員サービス「ラブラッド」会員の登録推進と会員アプリを用い献血予約率の更なる向上など、ラブラッドアプリ機能の有効活用により、献血者確保に努める所存です。

また、血液を安定的かつ効率的に確保するため、年間複数回にわたり献血に御協力を頂けるよう次回予約の推進を継続するほか、ライフスタイルの多様化に対応するための取り組みとして、献血会場の実情に応じた受入時間帯の設定や職域及び学域団体に対しては、移動採血を配車しての献血協力のみならず、県内各固定施設及び街頭献血会場への誘導などを積極的に取り組んでまいります。

次世代への啓発事業としましては、学生本人への直接的な働きかけだけでなく学校関係者、教員やPTAなど学生・生徒に影響力のある方々を対象とした献血セミナーや施設見学等も積極的に実施し、受講後には献血に誘導できるような取り組みを考えております。

議長・長谷川会長

ありがとうございました。

それでは、ただいま説明のありました議題を含めまして、委員の皆様からの御意見、御質問がありましたら、御発言を頂きたいと思います。

それぞれの立場から広く御意見を頂くため、申し訳ございませんが、私の方から指名させて頂きたいと思いますのでよろしくお願いします。

はじめに、愛知県赤十字血液センターの木下委員いかがでしょうか。

愛知県赤十字血液センター・木下委員

愛知県赤十字血液センターの木下です。

皆様には日頃から血液事業に御理解御支援賜り、厚く御礼申し上げます。

先ほど愛知県及び血液センターの方から、血液事業の中で、毎年、特に全血献血者の確保に非常に多くの労力を必要としておりますので、そのあたりを御説明頂いているところですが、今回は原料血漿の確保ということについて説明したいと思います。

机上配布いたしました愛知県赤十字血液センター作成の資料を御覧ください。

御承知のとおり、我が国は少子高齢化が急速に進んでおり、献血可能な人口の減少等で状況が変わりつつあります。血液製剤の需要については、先ほど御説明にあったような増減はありますが、大きな増減はない一方で、免疫グロブリンを中心とした血漿分画製剤の需要は増加し、国内需要に必要となる原料血漿量は136～160万L規模に達すると、今年度は123万Lということからも、大きく増えるということが見込まれています。

現在の国内血漿分画製剤メーカーの製造能力が合計120万L程度ですが、今後武田薬品工業株式会社が2030年度を目途に大阪に200万L規模の製造能力を持つ工場を稼働させる予定となっています。日本赤十字社で来年度は120万Lと説明しましたが、今後の原料血漿確保は、当面の間は単年度の供給量に関わらず、毎年2万Lずつ確保量を増加させて頂く、これは貯留在庫を含めてということになりますが、計画しております。

下のグラフを御覧頂きましたとおり、令和10年度で供給量136万Lほどが国の方針で示されており、そういったことも踏まえながら十分に増加させ、令和13年、2031年度には136万Lまで増加させていくということを考えております。

このための対策として、もちろん協力頂ける方の確保、それから原料血漿確保を目的とした献血ルームの拡充ということで、愛知県においては全国に先駆けて令和3年にイオンモール Nagoya Noritake Gardenの中に献血ルームフォレストを開設し、成分献血専用で予約に特化したルーム開設をして、この事業の推進に寄与しているところです。

その他、採血の効率化や分離の効率化を通じて、原料血漿の確保に努めているところですが、要するに献血に御協力を頂ける方の増加が必要な状況にあることを御理解頂くための一助として説明をさせて頂きました。

議長・長谷川会長

ありがとうございました。

次に、愛知県議会議員、福祉医療委員会委員長の松本委員いかがでしょうか。

愛知県議会・松本委員

一県民の立場として、意見させて頂きます。

先ほどからありますように、若い方たちの献血に対する意識が低いというわけではなく、恐らく学校現場等でそういった必要性がなかなか働きかけていないのだろうなという思いがあります。

以前は学校内での献血の実施は6割くらいあったところが、今は2割くらいしかないというデータもあるようです。

厚生労働省は学校現場で行うように言っていますが、文部科学省の方がいろいろな社会背景があって、二の足を踏んでいるのかなと思っています。

その中で、若い方にいかに献血に馴染んで頂いて、献血の必要性を学校現場だけに任せるだけでなく、親御さんの世代とともに伝えることも大事だと思います。

献血ルームフォレストといったショッピングモールのように、馴染みやすい場所にもう少し作っていくことも大事だと思いますし、若い方のきっかけづくりになると思います。

また、初めてだとなかなか入りにくいと思いますが、一度入ったら2回目3回目は入りやすくなると思います。若い方たちがなぜそこに足を踏み入れて頂けないのか、あとは若い方に対してイベント的なことを仕込みながら、待つのではなく攻めるような形でやっていくことも必要と思いました。

例えば、献血ルームを全部回って、鉄道会社で行っているようなスタンプラリー的なこと、そこにしかないようなものを配布する、また、どこかの献血ルームではミニカーのトミカを献血者に配布しているそうで、マニアの方にはレアものということで、物で釣るといいことではないかもしれませんが、話題作りとしてメディアに取り上げてもらえないと浸透しない。

そして、献血に行くことがネガティブじゃなくてポジティブなことだと知らしめていくことと、個々では行きにくい部分もあるので、グループで来て頂くと何か特典があるような足を踏み入れやすい政策を県としても高めなくてはいけないと思います。日本赤十字社でもそういった受け身ではなく、こちらからもう少し仕掛けていくこともいると思います。

このままいくと69歳までの献血される方が、どんどん高齢化していき、血液が不足していくことが目に見えておりますので、今の親御さん世代や16歳未満の子供たちにも、そういった啓発活動していると思いますが、能登震災でのボランティア文化が日本でも少しずつ根付いてきているように、献血の文化も、文化ではおかしいかもしれませんが、献血の必要性をいろいろな形で啓発する必要があると思います。

議長・長谷川会長

いろいろと御提案頂き、ありがとうございました。

事務局と愛知県赤十字血液センターから、よろしく願いいたします。

愛知県赤十字血液センター・木下委員

松本委員、貴重な御提案を頂き、ありがとうございました。

先ほど、いろいろな施策について事務局から説明があったところですが、愛知県赤十字血液センターの取組について、追加で資料を配布して説明をさせていただきます。

(追加資料配布)

愛知県赤十字血液センター・桜井事務部参事

愛知県赤十字血液センター企画広報担当の桜井と申します。先ほど配布しました資料について御説明いたします。

若年層へのアプローチ、きっかけづくりについて、先ほど御説明がありました通り、全国的に展開している「はたちの献血」キャンペーンを始め、愛知県学生献血連盟が主催した、毎年各シーズンに実施している献血キャンペーン等によって、献血の意義や必要性を訴え、献血して頂けるような取り組みを実施しています。ほかに地元のスポーツチームと連携したキャンペーンも実施しています。また、地元のアニメを採用したキャンペーンの記念品として地元の企業に協賛を頂いて取組を行っています。

さらに献血PR大使を起用した事例について、日本赤十字社全体となりますが、上白石萌音さん、愛知県赤十字血液センター独自の取組では、地元のシンガーソングライターの心悠-みゆ-さんやバレーボール選手の市川選手をアンバサダーや一日所長として就任頂き、若い方へのアプローチの御協力を頂いております。

しかしながら、若い方の趣味嗜好が多様化しており、皆さんが好きなものが異なる時代でありますので、万人にうける施策が難しいですが、委員の皆様からの御意見を取り入れながら、将来の献血基盤となる若い方にアプローチをしていきたいとおもいます。

議長・長谷川会長

ありがとうございました。松本委員いかがでしょうか。

愛知県議会・松本委員

「はたちの献血」キャンペーンや「卒業献血キャンペーン」をやっていますが、16歳になれば献血ができるということをもう少し厚く周知したほうがいいと思いました。年齢のところが周知されてないというか、皆さん意識がないので、節目として「はたち」や「卒業献血」などのキャンペーンだと思いますが、16歳になったら社会貢献ができるというくらいのアプローチの仕方とかボランティア同様に社会の役に立つというところをアピールしたほうがいいと思いました。

医薬安全課・稲熊担当課長

県としましては、「はじめての献血」として啓発資料を作成しており、高校1年生を対象に高校を通じて配布して、啓発に努めています。

愛知県赤十字血液センター・木下委員

2年前から小学校4年生を対象に献血について学ぶようなリーフレットを使い、献血ができる前の年齢から血液あるいは献血事業についての知識を深めて頂き、ラブラッドのプレ会員という制度を使い、16歳になる前からでも登録でき、16歳になれば献血できますという広報を献血に至る前の年齢の方にアプローチしております。

議長・長谷川会長

ありがとうございます。若い方への工夫が今、課題として出されていると思います。県も血液センターもいろいろと工夫して進めて頂ければと思います。

次に、愛知県医師会の田那村委員いかがでしょうか。

愛知県医師会・田那村委員

愛知県医師会の田那村です。若年者への献血、絶対数が減っている部分に対して、どうやってアピールしていくかが問題なのかというのと、資料21ページの月別の献血者で、冬場というのは例年献血者が減るのかと思うのですが、感染症とリンクするのかなということと、健康な人が体調が悪いから献血をやめるのかなと思っています。

献血車を出すときに、定点以外のところで行うとき、医師などの人的な配置も安定しないのではないかと思います。

そういった不安定要素もあって、献血車が安定的、システマチックに動くことができないのではないかと思います。そのあたりはいかがでしょうか。

あとはSNSで、クリックするとコマーシャル、例えば献血のコマーシャルが流れたとしてもその部分に興味を持ってクリックしてくれるのかどうか、お金のわりに宣伝効果が非常に悪いと、HPVワクチンのキャンペーンでも、その部分がどれだけ活かされたのかその部分が疑問で、お金を出してやっている割には周知できなかったのではないかと、SNSを活用するという部分で県としてどのようにSNSを活用していくのか検討があれば教えて頂きたい。

議長・長谷川会長

2点御質問、御意見がありました。まずは献血車における人の配置がどのような状況か説明をお願いします。

愛知県赤十字血液センター・木下委員

恐れ入りますが、献血車の点について、もう一度御説明頂けますでしょうか。

愛知県医師会・田那村委員

献血のドクターのアルバイトの案件があり、例えば岡崎市で献血をするときに携わる医師の絶対数が足りていないのではないかと、足りてなければ献血車に乗って事業展開するのも安定しないのではないかとという部分を御質問させていただきます。

愛知県赤十字血液センター・木下委員

検診医師のことかと思いますが、検診医師が足りないため献血会場が動かせないということは決してございません。ただ、愛知県赤十字血液センターの中で申し上げますと、豊橋事業所が管轄している東三河を中心としたエリアでは、どうしても安定して従事頂ける医師の確保に苦勞して、瀬戸でもよくありますが豊橋の方がその傾向が強いということで、豊橋周辺の医師会に検診医師の御協力をお願いすることがありますので、そういったものを御覧になられたのかと思います。

どうしても確保できない場合は普段は瀬戸や名古屋市内で従事している先生にもお願いして豊橋エリアで従事して頂き、会場についてはすべて計画通り稼働していますが、引き続き御協力頂ける先生がいましたら、御紹介頂ければと思います。

愛知県医師会・田那村委員

その点については、理解いたしました。もう一点、SNSについておねがいします。

医薬安全課・稲熊担当課長

SNSを活用した広報については、今年度から新たに取り組んだもので、県の公式LINE及び県のX（旧Twitter）で、7月の「愛の血液助け合い運動月間」、毎年夏場と冬場に献血者数が減少するときに実施する愛知県庁の官庁街献血について広報、啓発を行いました。

効果的なSNSの活用については、今後研究したいと思います。

愛知県医師会・田那村委員

何パーセントの人が見てくれるかというのは、HPVのときに分かったのですが、本当にそれを見て利用してくれたのかという部分が大変難しく、何人が見てくれてれば、何パーセントかはクリックしてくれるという利用者の数をカウントして頂ければと思います。

議長・長谷川会長

工夫して確認をお願いしたいと思います。

次に、一般社団法人愛知県病院協会の宇野様いかがでしょうか。

一般社団法人愛知県病院協会・宇野様

本来であれば、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院の錦見院長が御出席の予定でしたが、都合により代理で私が参りました。

いくつか質問をお願いしたいのですが、まず 24 ページの回数別実献血者数について、これはその年に献血に来られた方の一部にアンケートを行ったということでしょうか。

愛知県赤十字血液センター・木下委員

これは実績数となります。アンケート調査ではなく、実際に本人確認したうえでの献血して頂いた実数となっております。

一般社団法人愛知県病院協会・宇野様

そうしますと、この総数は 14 万人ですが、愛知県全体で献血された数と異なっていますので、一部の方にアンケートされたのかなと思い伺いました。

令和 6 年だと 144,148 人の方が回数の御返答されているのですが、愛知県では令和 6 年に 292,367 人となっていてその数の違いはなぜかなと思いました。

医薬安全課・稲熊担当課長

数については、1 回の方は 87,070 人で 2 回の方は 31,460 人掛ける 2 になりますので、献血実施者数は延べ回数となります。

回数別実施者数の表については、2 回であっても 3 回であってもおひとりという数え方をしていますので、14 万人となっており、先ほどの献血者数と異なることとなります。

一般社団法人愛知県病院協会・宇野様

後ほど効果検証のことをお伺いしたかったのですが、こういったデータを出されたときに、2 回というのが 2 年連続の 2 回ということか、10 年ぶりに来たということなのか、そういったことはあるのでしょうか。

愛知県赤十字血液センター・中津留事業推進一部長

それに関しては、年で集計しています。

1 年間に 2 回とか 11 回ということで、何年振りというわけではありません。

一般社団法人愛知県病院協会・宇野様

1 回しか来ない人を 2 回献血させるのが課題だというのは、1 年間で何回か来てもらうことが課題ということですね。

もうひとつ、13 ページに年齢別の献血状況で実数と献血率ありますが、もし献血率が現状のまま 10 年間推移すると、人口動態はわかっていますので、10 年後の愛知県の献血者数は推論できると思いますが、10 年後の献血の需要量は増えていると思いますが、その差分は推定されているのでしょうか。

愛知県赤十字血液センター・中津留事業推進一部長

そういったデータについては持ち合わせていません。

血液事業本部では全国の 5 年、10 年先の献血者の推移のデータは持ち合わせていますが、各都道府県別となると、申し訳ございませんが、数字を持ち合わせていません。

一般社団法人愛知県病院協会・宇野様

若年層の低さを見ると、このまま推移すると 10 年とかで足りなくなってしまう、その差分が数字で出てくると思います。その差分を埋めるための効果的な対策ということになると思いますが、もうひとつ、聞いたかったのが、効果的というのは、先ほどの委員の先生と被りますが、検証されているのかが非常に気になっていて、今回いろいろなリーフレットとか SNS を打ち出しているのですが、それが本当に効果があったのかということをこういった会議で共有しないと、来年こういう検討しますということに、良いですねとはなかなか言えないと思います。

議長・長谷川会長

ありがとうございます。

効果的な啓発という言葉ですが、評価できるものが必要という御意見だったと思います。しっかりそういったこともわかるように資料も作って頂ければと思います。

次に、ライオンズクラブ国際協会 334-A 地区の佐野委員いかがでしょうか。

ライオンズクラブ国際協会 334-A 地区・佐野委員

私たちライオンズクラブでは何年も前から献血者を増やすために各ライオンズクラブがそれぞれ考えて運動をしてきました。

人が集まるお祭りのときや各地域のイベントがあるときに献血の呼びかけをやっていたのが大部分で、献血バスによる全血献血だと思いますが、他に最近では一部のライオンズクラブでは血液センターがある地域で、献血券を日本赤十字社の協力を得て出して、ポイントを付けてお礼をするというような運動もしています。

しかし、様子がだいぶ変わってきていますので、血漿成分を増やしていかないといけないとなるとどういったことをすればいいのか、日本で献血運動をやってきたクラブでも、血液が不足気味だから上乘せができないのかといっても、できるかできないかの意見は半々です。

若年者への献血への呼びかけは何年か前から言われていると思いますが、資料を見て、若年者は多いのですが、リピーターが少なく、高齢者ではリピーターがほとんどだと思います。いずれ何人かがリピーターになってくれると嬉しいのですが、高校でやっているときはラブラッドとか献血の Web サイトをとりいれてやっていて感心します。心の中で献血の記憶が残るだけではなく、なにかの拍子に、若年者であってもリピーターになって献血して頂けるのではないかという希望をかすかに持っています。

人数だけで見るとリピーターが少ないのですが、限られた方が一生懸命献血に協力して頂いているのが現状だと思います。

愛知県赤十字血液センター・木下委員

日頃からライオンズクラブの皆様には大変お世話になっております。

先ほど行った原料血漿の説明が言葉足らずでしたので、補足させていただきます。

原料血漿のもとになるのは、成分献血もありますが、全血で御協力頂いた皆様の血の赤血球と血漿に分けた血漿の部分も原料血漿となっています。

全血献血についても、原料血漿の確保という面からも非常に大きく貢献頂いていますので、これからも必要性が下がることは決してないと考えています。

引き続き御協力頂けますと助かりますので、よろしくお願いいたします。

議長・長谷川会長

ありがとうございました。

次に、愛知県地域婦人団体連絡協議会の倉元委員いかがでしょうか。

愛知県地域婦人団体連絡協議会・倉元委員

令和7年度献血推進のための具体的な方策の中に「夏休み親子血液教室」があります。

これは小学4年生を対象にということでしょうか。また、これはどこでやるのか、やったのかお伺いいたします。

愛知県赤十字血液センター・桜井事務部参事

夏休み親子血液教室については、愛知県と共同で瀬戸にある愛知県赤十字血液センター及び豊橋市にあります愛知県赤十字血液センター豊橋事業所で実施しております。

対象は小学校の4年生、5年生、6年生とその親御さんを対象に実施している事業です。

愛知県地域婦人団体連絡協議会・倉元委員

もう何度かしているのでしょうか。

愛知県赤十字血液センター・桜井事務部参事

過去いつから開始したのか、記憶にはありませんが、かなり前から実施している事業です。

愛知県地域婦人団体連絡協議会・倉元委員

県で応募して人を集めているのですか。

愛知県赤十字血液センター・桜井事務部参事

ホームページ等で募集を行い、応募者の中から抽選で参加者を決めています。

愛知県地域婦人団体連絡協議会・倉元委員

ありがとうございます。

私たち愛知県地域婦人団体連絡協議会は赤十字奉仕団の母体となっていることが多く、献血に対して、とても協力している団体もあり、私は大府市ですが、あまり献血に対して奉仕団として協力できていないのですが、とても大事なことだと思っています。

方策を見ていると私たちが協力できるというと、親子の教室を設定することはできるのではないのかと考えました。

そのときに、松本委員からもありましたが、16歳以下の子供たち、小・中学生に啓発をしていくのは重要なことだと思います。

その一環として親子血液教室をもう少し広げていってはどうかと思いました。ただ、私たち単独で行うには知識もなく難しいので、そのあたりを日本赤十字社のほうで考えて頂いて、取り組みを広げて頂くと、県だけでなく奉仕団でもやる気のある方が多いので、防災でいろいろなことをやっていますので、可能なのではないかと思いますので、もし今後方策を考えるひとつに入れて頂ければと思います。

愛知県赤十字血液センター・桜井事務部参事

ありがとうございます。

血液センター側も高校生から献血は可能なのですが、献血可能な年齢未満への献血啓発は大事だと考えています。

親子血液教室以外にもイベントで献血バスを用いて、小学生を対象にキッズ献血という模擬の献血を体験して頂くような取り組みもしております。

そういったところも広げて実施していきたいと思います。

議長・長谷川会長

ありがとうございました。

次に、名古屋市地域女性団体連絡協議会の平出様いかがでしょうか。

名古屋市地域女性団体連絡協議会・平出様

普段は伊藤会長が出席しておりますが、代理で出席しております。

本日の協議会の勉強のために栄献血ルームに行き、気になった点について伺いたします。

献血をした後に子供たちが書いた、献血で血を分けてくれてありがとうおかげで僕は元気になって学校に行くことができましたという小さなカードをもらいまして、それがとても心に響いて、献血する提供者側の満足度につながるような対策はされているのでしょうか。

あとと思ったこととして、キッズスペースがあると若い小さいお子さんを連れた御家族は来やすくなって、その子供が大きくなった時に親子血液教室に参加したり、小さい時から献血に対してなじみが深くなるので、ほかの献血ルームにはあるのかもしれませんが、そういったものもあるのかなとお伺いします。

愛知県赤十字血液センター・中津留事業推進一部長

栄献血ルームで配布しているカードを読まれたということで、私も普段から小さな子供のありがとうの言葉のカードをパソコンの近くに置いています。これは全国展開しておりまして、各献血ルーム等々で積極的に配布しております。

また、血液センターのホームページなどでも輸血を受けられた患者本人やその御家族からのありがとうの言葉を掲載させておりまして、献血に触れ合う皆様への感謝の言葉を添えさせて頂いて、将来に向かって、少しお言葉なんかを今後も載せていければと思います。

キッズスペースについては各献血ルームにあります。今コロナの関係もありまして、実際には活用できていません。今現在はほかの形で使用しています。

議長・長谷川会長

ありがとうございました。

次に、愛知県学生献血連盟の牧野委員いかかでしょうか。

愛知県学生献血連盟・牧野委員

広報に関して御質問があります。

大学内で献血を実施したときに学生が献血に関心のないわけではないと実感しました。例えば南山大学で学内献血を実施したとき、広報の工夫として、O型が足りていない、O型の血液が必要であると呼びかけの際に強調した結果、普段が60名くらいの献血者数の目標であるところ80人になりました。

なかなか普段からの呼びかけ活動で実施することは難しいと思いますが、献血を呼びかけを実施するときに特定の側面から広報を実施するといった方法は検討しているのでしょうか。

愛知県赤十字血液センター・鈴木事業推進一副部長

広報の件について、南山大学での献血の御協力を頂いたとき、O型の血液が愛知県内で非常に厳しい状況でした。その中でO型の呼びかけを頂いたのですが、現在も同様の状況のため、チラシを作りました。

O型の赤血球が医療機関で血液型を調べる間もないような緊急の輸血のときにO型を使われるケースがあるのではないかとということで、通常の日本人の人口割合より少し多めにO型の血液が使用される傾向が見受けられます。

そのため、チラシを作り、こういう理由で具体的にO型が足りませんという、ただ単純に足りませんというのではなくて、そのような工夫をして現状PRをしているところです。

現在、南山大学で非常に効果があったということで、今も続けています。

愛知県赤十字血液センター・中津留事業推進一部長

O型が全国的に非常に厳しい状況ですが、当然広報ではSNSやラブラッドをフル活用して呼びかけています。学生さんにもO型が足りませんという呼びかけをしていますが、結局のところ、人の声掛けが非常に大事になってきます。

ラブラッドやSNSを現代では使いがちですが、いつもメッセージが届くと、すぐに削除してしまったりします。ただそういったものを積極的に活用して、O型がなぜ足りないのか、どうしてこういう状況なのかを必要に応じて発信していくことに御理解頂ければと思います。

愛知県学生献血連盟・牧野委員

実際に私たちもSNSを通じて情報発信や献血ルームの広報をしているのですが、活動を通じて実感したことは、地道な街頭での呼びかけ活動というのが一番効果があるという、3年間愛知県学生献血連盟という学生団体に務めて、実感いたしましたので、おっしゃられたことをぜひとも実施して頂きたいと思います。

議長・長谷川会長

ありがとうございました。

次に、愛知県公立高等学校長会の久永委員いかがでしょうか。

愛知県公立高等学校長会・久永委員

岡崎工科高等学校長の久永です。

質問ということではなく、皆様の御意見を伺いまして、やはり高校生の献血という、この部分をどう呼び掛けていけるのかという部分を学校サイドとしてやる形、先ほどからあるような声掛けや、いろいろなリーフレット等を使いながら声掛け等々を行っていきたいと思っています。

議長・長谷川会長

ありがとうございました。高校の話もたくさん出ておりますので、よろしくお願いします。

次に、愛知県私学協会の永尾委員いかがでしょうか。

愛知県私学協会・永尾委員

こういった場に初めて参加しました。こういう広報活動をしているということを実はあまり知りませんでした。子供だったらこういったことをどれくらい知っているのか、もったいないと思いました。

自分自身も高校に献血車が来て献血したのが初めてで、それから少し関心はありましたが、献血ルームまで行って献血する若い人はなかなかいない。

近くにそういった場所があると、それから献血には時間がかかるため、時間の余裕がある、すぐできるということが大事なのかなと思います。

あとは、若い人たちは関心がない訳ではなく、ボランティア精神は結構あります。こういう献血意義とか今こういうことが困っているというのが伝われば気持ちが向くと思います。

私どももそれを伝えなくてはいけないと思いますが、こちらの方の知識がないこともあるので、そういったことから進めていくのは良いと思います。

あとは献血という言葉も、何かもう少し身近なものに変えるとか、あるいは海外で成功しているような国とかあれば、そういったことも活用できればいいかなと思いました。

議長・長谷川会長

ありがとうございました。

啓発についてコメント頂きましたので、事務局は活かして頂くようお願いします。

次に、中日新聞社の大橋委員いかがでしょうか。

中日新聞社・大橋委員

中日新聞社の大橋です。今回初めて参加させて頂きました。

先ほどから若者の献血数を増やすということを言われており、一つは特典をつけてやること、それから著名人、インフルエンサーを起用して声をかけるということが出ていまして、やはりPRのやり方としては王道でありますし、やっていくのがいいのかなと思います。

また、SNSについては、こういった形でやっていくのか、この令和6年度から始められたとのことですが、その効果がわからないとやっていけないと思うので、例えば献血に来た方に、どういうきっかけで来たかを聞くようなことができるかどうか、それをまたPRにフィードバックできるのかと思いました。

これは中日新聞社の若手の記者がコラムを書いていたが、一度献血をして、しばらくすると献血ルームから電話がかかってきたそうです。

どうしたのか聞いてみると、血液不足で一度献血に来て頂いた方に電話をしていますとのことでした。

そこまでやるのは大変だと思いますので、そういう状況なのかと思いましたが、先ほどありましたように直接の声掛けが大事だということで、いろいろなやり方で声をかけていくのが大事と思いました。

議長・長谷川会長

ありがとうございました。

次に、広報広聴課の石川様いかがでしょうか。

広報広聴課・石川課長補佐

広報広聴課の石川です。政策企画局長の代理で出席しております。

広報広聴課では、新聞やテレビ、ラジオといった媒体を持っておりまして、そちらで毎月いろいろな情報を広報しております。引き続き担当課と連携して広報していきたいと思っています。

来年度の計画の中で期待しているものとして、ラブラッドの登録を働きかけるというのが昨年のもから新しく追加されています。

先ほどライオンズクラブの佐野委員からありましたが、ラブラッドは、献血をしたことのある若い方は、スマホにきっと入れていると思います。特典もありますし、前回の献血がいつで、次いつから献血できるかも表示されます。

また、大橋委員からありましたが、献血の呼びかけは、今は電話ではなく、メールで届きます。それを見るとまた行こうという気にもなりますし、リピーターの確保にも役立つと思います。

あとは、献血車ではなく、献血ルームにしか行ったことがありませんが、献血ルームに来られる方は、基本的に知り合いと来る方はあまりいない印象で、だいたいお一人で来られる。初めてが一人だと緊張するので、松本委員が言われた、グループで行くと何か特典があるというのは、いいやり方だと思いました。

いずれにしても献血ルームには若い方もたくさん来ており、待ち時間も予約が推奨されていることもあり、ほぼなくできていると思います。

引き続き、広報広聴課としても広報していきたいと思います。

議長・長谷川会長

貴重な御意見ありがとうございました。

今後に活かして頂けるよう、勧めて頂ければと思います。

まだまだいろいろな御意見を伺いたいと思っていましたが、お時間も来ていますので、先ほど事務局から説明がありました、「令和7年度愛知県献血推進計画（案）」について、事務局案のとおりとしてよろしいでしょうか。

（一同異議なし）

それでは、事務局は、今回承認された案について、国の計画が官報に掲載されましたら、必要に応じて修正の上、令和7年度愛知県献血推進計画を作成してください。

最後に、3のその他ですが、事務局からなにかありますか。

医薬安全課・杉浦主査

事務局から1点事務連絡いたします。

作成した令和7年度愛知県献血推進計画については、3月下旬に医薬安全課のホームページで公開をいたしますので、御承知おきください。

議長・長谷川会長

それでは、以上で本日の議題はすべて終了しました。

また、貴重な御意見を頂きましたこと感謝申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。

それでは、進行を事務局に返します。

○ 閉会

医薬安全課・稲熊担当課長

ありがとうございました。それでは以上をもちまして、本日の協議会を終了したいと思います。本日は大変お忙しい中、誠にありがとうございました。